

堂々とした語りを披露し、会場を沸かせた牛坂さん<sup>(左)</sup>と高橋さん

# 民話語り部は小学生

## 「松川の昔話」で初挑戦

絵本や読み聞かせを通じて昔話に親しんできだ。高橋さんは「方言のなりや言葉遣いが普段と違つてい」と話す。昨年に学校で開かれた民話教室で地元の語り部らでつくる「松川民話の会」の語りを聞いた。

明るい性格で普段から話すことが好きな2人は「みんなの前でやってみたい」と思ったという。同会に知り合いがいた牛坂さんの母を通じて、「弟子入り」した。9月20日の本番約1カ月前から練習に励んだ。牛坂さんは「みんなに伝えたい

と思った」というアマガエルの話、高橋さんは「最後はいい話で終わる」狼ヶ森

のオオカミの話をすることを決め、自宅で家族にアドバイスをもらつたり、話を一生懸命覚えたりした。1

週間前には同会代表の渡部八重子さん(88)から「少し間違つても動じない。堂々と前を向くことが大切」と背中を押された。

本番では「すごく緊張したし、少しミスをしてしまつたけれど、自分なりにしっかり話せた」と2人。大人頬負けの堂々とした語りに、会場からは大きな拍手が送られた。終了後、会場で見守った家族や同会の会員から褒められたといい「やって良かったと思った」と充実した表情を見せた。

昨年に高橋さんの担任だった教諭の早川雄一郎さん(58)は「地域のことを知るための学習で民話教室を行つた。そこで興味を持ち、自主的に取り組んでくれてうれしい」と目を細めた。

渡部さんは「練習で見つかった課題を修正していく、やる気を感じた。立派でした」とたたえた。

福島市の松陵義務教育学校5年の牛坂まこさん(11)と高橋満佳さん(11)は、同市の松川学習センターで開かれた「松川の昔話」で初めて民話の語り部を務めた。2人は「もっと上達していろいろな民話を話せるようになりたい」と声をそろえる。

# 松陵義務教育学校 牛坂さんと高橋さん

▲10月28日 福島民友新聞掲載

あなたの地域にはどんな民話がありますか？



記事を読んだ感想や意見を書いてみよう。

(When)いつ？

(Where)どこで？

(Who)だれが？

(What)何を？

(How)どのように練習を進めた？

(Why)なぜ民話の語り部をしようと思った？